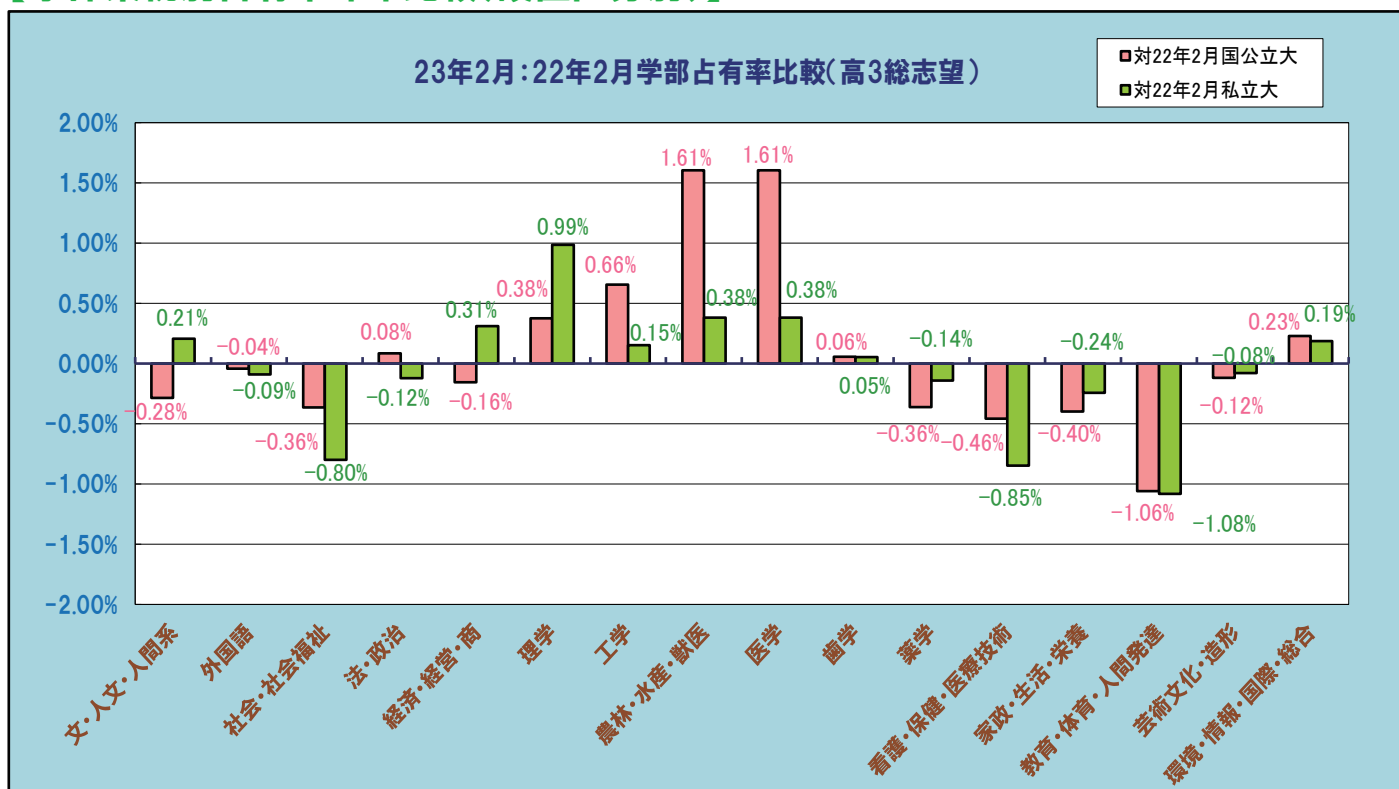


第1回 2月 共通テスト本番レベル模試

新年度を迎える前に 基礎固めをしっかりと行おう！

2月19日（日）に実施した「第1回 2月 共通テスト本番レベル模試」の新高3生の学部系統別の志望動向を、昨年同時期に同模試を受験し、間もなく大学入試を終えようとしている受験生の志望動向と比較した。もうすぐ受験シーズンを終えようとしている先輩たちは昨年の今ごろ、どのような学問を学ぶことを目標にしてスタートを切ったのだろうか。ライバルに差をつけるためにも、受験勉強の早期スタートを切り、春休みを利用して基礎固めを行おう！

【学部系統別占有率昨年比較(設置区分別)】



【学部系統別指数(設置区分別)】*前年度を100とする

系統別名称	国公立指数	私立指数	総合
文・人文・人間系	95	102	100
外国語	96	95	95
社会・社会福祉	78	85	83
法・政治	101	99	100
経済・経営・商	98	102	100
理学	104	117	109
工学	101	106	103
農林・水産・獣医	112	107	110
医学	116	114	116
歯学	108	122	111
薬学	92	97	95
看護・保健・医療技術	93	81	88
家政・生活・栄養	78	83	81
教育・体育・人間発達	83	73	79
芸術文化・造形	78	94	89
環境・情報・国際・総合	105	103	104
うち情報	105	98	102
うち国際	100	90	97

■国公立大

2023年度入試の志望動向同様、理高文低の傾向が継続しているが、近年人気が高かった薬学系については92と減少している。しかしこの時期は医学系、歯学系に人気が集中する傾向があるため、今後増加傾向に転じる可能性もある。農林・水産・獣医系、特に2023年度入試でも志願者を集めた、獣医や動物看護、バイオ・生命科学の人気が継続している。

■私立大

全体的には国公立大と同様の傾向となっているが、2023年度入試で人気の回復傾向が見られた経済・経営・商学系の人気が引き続き上昇傾向にある。

ポストコロナの時代に入ることもあり、外国語系や国際関係の人気が少しずつ上昇することも予想されるため、今後の動向に注目していこう。

※このデータは、2023年と2022年の「第1回 2月 共通テスト本番レベル模試」について、大学の設置区分（国公立・私立）ごとに学部系統別の総志望者数（統一実施日受験の高3生・第6志望まで）から算出した割合を比較したものである。